

E-20 長時間通勤が生活に及ぼす影響について(第3報) 疲労と家庭生活
奈良女大家政 ○吉田洋子 宇田純子 田中信代 中森せつ子

目的 長時間通勤が生活に及ぼす影響について、生活のさまざまな側面において実態調査し、その影響を明らかにすることを目的とした。第43回日本家政学会関西支部研究発表会で、第1報-住民の基本属性、第2報-生活時間構造の変化を発表した。今回は、第3報として、通勤の疲労と、通勤が家族の生活に及ぼす影響について発表する。

方法 大阪市から約55kmの遠隔地にあり、都心部まで約70分かかる三重県下の拮据な丘陵住宅地で、全戸数1305戸中、単純無作為抽出によって、502戸を抽出し、アンケートを世帯主と主婦に依頼し、留め置法によって回収した。

結果 通勤時間の長い人ほど、通勤による疲労感・通勤時間に対する長さ感・無駄感・時間的な拘束感などが強い。また、疲労感の強い人ほど、身体の調子の悪い時の通勤の苦痛感が強く、職場や家庭での意欲喪失を強く意識し、将来、現在の通勤を続けることに健康上の不安を感じている。

家族の生活への影響は、通勤者の出勤時間が早いほど、妻の朝食準備に対する負担感は強く、帰宅時間が遅いほど、「もっと早く帰宅してほしい」という要望を妻が持ち、妻・子供、ともに淋しく思う人がふえる。通勤者の帰宅後就寝までの時間が短いほど、妻は「夫にもっと相談にのってほしい」という要望を持ち、妻から見て、父親と子供との接触時間が不十分だと感じている。以上のように、長時間通勤が通勤者のみならず、家族の生活に多大な影響を与えていることがわかる。